

Pick up

- ▶第2次神栖市総合計画を策定
- ▶神栖市スポーツレクリエーション祭 2018

かみす

特集

まちの魅力再発見

スポーツタウン

スポーツ合宿の聖地 神栖

年間約30万人がスポーツ大会や合宿に訪れる神栖市。スポーツ合宿の聖地と呼ばれるまでになつたいきさつを、波崎旅館業協同組合さんに聞きました。さらに、24面を備えた県内屈指のテニスコートなど、恵まれたスポーツ環境を紹介します。

写真右：TRAUM CHALLENGE FESTA(カ部サッカールーム)
左：いきいき茨城ゆめ国体リハーサル大会(海浜陸球場)

AR

広報かみすが
動き出す



[COCOAR2]



アプリをダウンロードし
表紙にスマートフォンを
かざしてください。
詳細は18ページ

特集

スポーツ合宿の聖地 神栖

サッカー場やテニスコートをはじめ各種スポーツ施設が充実し、温暖な気候にも恵まれて、年間約30万人もの選手が合宿や大会に訪れます。今回は、神栖市の恵まれたスポーツ環境に迫ります。

スポーツタウン

手づくりのサッカー場

鹿島アントラーズのホームタウンである神栖市は、サッカーをはじめ野球、テニス、バスケット、バレー、柔道、剣道などさまざまな競技に対応できるスポーツ施設が充実し、数多くの大会が開催されています。

そんな神栖市の持つもう一つの顔が、日本有数のスポーツ合宿地。とくに有名なのがサッカー合宿で、少年チームや中学・高校・大学のサッカー部など、有名な強豪校も合宿や練習試合を行なっています。

しかし、なぜ「スポーツ合宿の聖地」と呼ばれるまでになったのか、そのいきさつはあまり知られていません。そこで、全国に先駆けてサッカー合宿を誘致した波崎旅館業協同組合の皆さんに話を聞きました。

そもそものきっかけは、海水浴シーズン以外にも宿泊客に來てもらうため、スポーツ合宿に着目したのが始まりでした。Jリーグが発足した1993年、旅行会社が波崎でサッカー大会を企画したところ、約70チームもの申し込みが殺到。受け入れが追いつかないほどだったといいます。

「天然芝のグラウンドがあれば、



神栖総合公園にはサッカー場とフットサル場がある



クッション性が高いロングパイル人工芝の矢田部サッカー場



波崎旅館業協同組合が管理するユニオングラウンド



(左から)事務局長の花香泰明さん、代表理事の青野竜也さん、前代表理事の山崎芳一さん



平成18年に開所した矢田部サッカー場。多くのアスリートが大会や合宿で使用している

もっと多くの方に利用してもらえ
という手応えを得て、波崎旅館業
協同組合加盟の二十数軒が、それぞ
れ自前で専用グラウンドを持つこと
にしました。なるべく整備費用を抑
えるため、余剰電信柱を購入して地
面に立ててネットを張り、旅館同士
が助け合ってサッカー場を作り上げ
ました。その後、各旅館が共同で使
用できるユニオングラウンドも整備
現在、組合加盟の旅館が所有する
サッカー場だけで、合計70面にも
なります」と前組合長の山崎芳一さ
んは話します。

練習試合から全国大会まで

合宿シーズンは、夏休み、冬休
み、春休みを中心に、連休や土日な
ど。宿のすぐそばにグラウンドがあ
り、年間通して練習できる気候条件
にも恵まれ、またたく間に人気を集
めました。同時期に多くのチームが
合宿しているので、練習試合を組み
やすいのも魅力の1つです。

さまざまな大会も開催されていま
す。なかでも有名なのが、全国各地
から選抜された高校生チームが出場
する『波崎ユースカップ』です。
今年で23回目を数えるこの大会は、



1



4



5



2



7



6



8

一年中緑の芝生を保つ

毎年12月末の5日間、実績順の3つのカテゴリーでリーグ戦が行われます。カテゴリーはインターハイ予選ベスト4以上のトップチームやプレミアリーグ出場チームなど。カテゴリー2・3では、次年度以降に活躍が期待される選手などにも出場のチャンスがあり、熱戦が繰り広げられます。

スポーツ合宿地には、他の宿泊地にはない特徴があります。一つは、オフシーズンがグラウンドの芝生を養生する重要な期間であることです。「夏芝は冬になると冬眠して茶色くなり、その状態で使用すると芝生が傷んでしまいます。そこで夏芝の上から冬芝の種をまき、冬場も緑のグラウンドを保ちます。春先には冬芝をわざと枯れさせ、夏芝が育ちやすいようにします。年間通して手入れを怠らない、自慢のグラウンドです」と事務局長の花香泰明さんは胸を張ります。いつも青々としたグラウンドが整備されているからこそ、サッカーにとどまらず、ラグロース、アメリカンフットボール、フットサルなど、幅広く合宿を受け入れることができます。



12 いきいき茨城ゆめ国体カヌースプリント競技場の神之池 34 県内屈指の24面テニスコートを備える海浜庭球場 5 海浜公園サッカー場。市内のサッカー場は約100面にものぼる 6 外野に芝生が広がる海浜球場 7 県内では貴重な専用のソフトボール場(海浜運動公園) 8 年間を通して泳げる海浜温水プール 9 神之池ランニングコース1周約5km 10 弓道場の射場(武道館) 11 柔道に使用される小道場(武道館) 12 剣道などのほかバドミントン、バレーボールにも使用される大道場(武道館)

れるため、着々と準備が進んでいます。また2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、事前キャンプ地の誘致活動も検討課題となっています。スポーツ熱が高まっている今こそ、スポーツに親しむ絶好のタイミングといえます。

スポーツツーリズムで魅力発信

大きな大会の際は、遠方から選手の家族や関係者も駆けつけるため、地元の観光地や特産品などを紹介し、地域の活性化につなげていきたいと同組合の皆さんは考えています。

このように、大会・イベントへの参加や観戦などスポーツを主な目的として訪れた宿泊客に、観光も楽しんでもらおうという「スポーツツーリズム」は、いま全国的に注目の的。市でも今年4月、スポーツツーリズム推進室を設置。本格的な取り組み体制を整えました。「観るスポーツ」「するスポーツ」「支えるスポーツ」を3本柱とし、地域の活性化や知名度アップを図ります。

市内には、矢田部サッカー場をはじめ100面にのぼるサッカー場、24面のテニスコートがある海浜運動公

園、カヌースプリントの会場として評価の高い神之池のほか、神栖総合公園、武道館、波崎体育館・豊ヶ浜運動公園、若松運動場、来年完成予定のかみす防災アリーナなど、素晴らしいスポーツ施設が整備されています。これらを最大限に活用し、今後はスポーツ大会の誘致やスポーツイベントの開催に一層力を入れていきます。

また、鹿島アントラーズの試合は、「観るスポーツ」において全国的な知名度を誇るアピールポイント。ホームタウンである鹿行5市との広域的な連携も視野に入れ、神栖市らしいスポーツツーリズムの展開を図っていくこととなります。

もっとスポーツを楽しもう！

2019年のいきいき茨城ゆめ国体では、テニス、カヌースプリント、グラウンド・ゴルフが市内で開催さ



市民が参加するスポーツレクリエーション祭

神栖市は、「市民ひとり・リースポーツのまち」をキャッチフレーズに、「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツを楽しめるまちづくりを進めています。大勢の市民が参加できる身近な大会から、ハイレベルな試合を間近で観戦するチャンスまで、豊富に揃っているのが大きな魅力。さらに、市民の皆さんが日頃何気なく利用しているスポーツ施設が、実はトツプアスリートが大会や合宿で使用している場所でもあるのです。この恵まれた環境をめいっぱい活用し、もっとスポーツを楽しんでみませんか？

もう一つの特徴は、選手たちとの交流が生まれることです。「お客様というより、遠くの親戚を迎えるような気持ちになります。合宿したチームが予選を勝ち上がって代表になると、うれしくて大会へ足を運んで応援します。また、高校生のときに来た選手が、何年も経って監督となって生徒を引き連れて来ることもあり、感激しますね。Jリーガーになった方もいますよ。合宿中、一番心配なのはケガ。思う存分サッカーをして元気に帰っていただくことが、私たちにとって最高の褒美です」と同組合代表理事の青野竜也さんの声がはずみます。

こうした25年におよぶ同組合の皆さんの地道な積み重ねがあって「スポーツ合宿の聖地」として認められ、年間約30万人にのぼる利用者数を誇るまでになったのです。